

4.3 まとめ

今年度実施した調査成果をまとめると、以下のとおりである。

- ① 撓曲帯は町田市成瀬が丘より横浜市都筑区荏田に至るほぼ東西の方向に延長しているが、東側に向かって徐々に変位量が減少している。
- ② 撓曲帯は今年度調査地を通過し、さらに東側まで延びている。
- ③ 本調査地域にみられる撓曲はおおよそ 200 万年前以降に活動を開始し、12.5 万年前以前に活動を停止した過去の活断層によって形成されたものであり、現在も活動を継続している活断層によって形成された（活断層を表す）ものではない。
- ④ 調査地付近に分布している地層は下位より上総層群、相模層群およびローム層であり、いずれも連続性が良いことから、露頭で確認した地層がボーリング調査でも確認できる。従って、露出している火山灰質鍵層を地質調査の前にあらかじめ同定しておけばボーリング調査を行った際に火山灰質鍵層のより詳細な傾動状況を確認することができる。
- ⑤ ボーリング調査工事を実施することが可能な敷地は今年度実施した探査測線沿いには多数あることから、今年度調査結果に基づいてボーリング調査を実施する場合は、求める成果について最も適当な位置を検討することができる。
- ⑥ 横浜市北部地域では撓曲活動は現在までに終息していると判断されるが、西部地域の撓曲の活動性については現状不明である。撓曲の活動性については、一般に今年度実施したような、撓曲帯を完全に覆う範囲に分布しており、なおかつ平坦な堆積面を有する地層の上面あるいは基底面の標高を調べることでその一部を把握することができるが、横浜市域では本調査地を除くこの条件を満たす地層は分布していない。従って、横浜市域において今年度実施したような調査を実施し、活動性の一部を評価することは困難であるものと考える。
- ⑦ 今年度調査によって横浜市北部にみられる地下段差構造は活断層ではないことを確認した。しかし、これは横浜市域に限定されるものであって、横浜市域よりも西部になると活動性や延長については全く不明である。活断層は地域によって活動性が異なることから、今年度調査した段差構造の延長や活動性等の全体像を把握するためには横浜市以西地域を含めた広域に亘る追跡および調査が必要である。